文教厚生常任委員会行政視察概要

平成３０年７月３１日（火）
於　小中一貫校　盛岡西峰学園
午後１時～３時

１　調査の概要・説明……盛岡西峰学園校長

「小中一貫教育について」

盛岡西峰学園は、盛岡市立土淵小学校と土淵中学校が６・３制のまま、施設一体型小中一貫教育を行う学校である。はじめに、同校開校までの経緯、現在の学校経営体制、具体的方策について説明を受けた後、当方からの調査事項として示していた、一貫教育実施による新たな取り組み、児童・生徒への影響、教職員の連携、研修、保護者・地域との連携などについて、説明を受け、あわせて学校施設の見学も行った。

本校開設にあたっては、地域が学校づくりを熱心に考える土壌があり、地域・学校・教育委員会による懇話会を定期的に開催し、協議が進められてきた経緯がある。一貫校開設後の新たな取り組みとしては、小中学校の相互乗り入れ授業があり、小学校高学年の英語の授業に中学校の教員が参加する、また、中学校１年生の数学の授業には小学校の教員が参加している。

児童・生徒への影響としては、中学生が穏やかで優しくなった、小学生は早くから自分たちの将来が見えることにより不安感が軽減されたなどの効果がある。また、ＰＴＡ、同窓会も小中で一つの組織となり、地域で９年間を見越した支援が行われているとのことであった。

一貫教育がスタートして２年、充実した指導が可能となり、子どもの心身の発達に良い影響がある一方、課題としては、乗り入れ授業を行うための人的要員の不足、小中学校の行事の調整などがあげられていた。

２　主な質疑応答

問　開設までの協議を行った懇話会のメンバー構成は。

答　土淵地区推進協議会のメンバーに加えて、県の教育委員会、学識経験者として岩手大学の先生が参加している。

問　登下校の見守りなど、地域と学校との関わりはどうか。

答　子ども会をはじめ、地域の善意の活動など、見守りへの協力は多い。また、中学生が夏休み中地域の活動（草刈り、まつりなど）に参加することも。

問　県の教育委員会の関わりは。

答　盛岡市の取り組みは、市の裁量で行っていることとして捉えられている。県の教育委員会でも、別に一貫教育の取り組みを行っている。

問　父兄の反応は。

答　進学にあたっての不安感が減り、安心感が増したとの声を聞いている。

問　学習指導要領改訂に伴う、主体的で深い学びをどのように実践していくか。

答　先人教育に力を入れており、その取り組みの中で取り組んでいきたい。

問　一貫校設置により、不登校の数は減ったか。

答　設置から２年で、まだ明確な成果は見えていないが、本年度の中学１年生については、明らかに学校に目が向いているように感じている。

問　良い取り組みは、他校にフィードバックしているか。

答　研究発表等で成果の報告は行っている。今後、さらに一貫教育の効果をまとめて発信していく必要性を認識している。

（図書室も小中で共有している）

問　西峰学園に続く一貫校の計画は。

答　今のところ予定はない。施設一体型ではなく、別々の施設のまま一貫教育を行っている。地域との調整が難しい。

以上